

いなほ福祉会ニュース

がんばってま〜す 83

「移動販売もがんばってま〜す！」

いなほ作業所

毎週月曜日から金曜日に、新宮～串本までの間でパンの移動販売をしています。

移動販売は午後1時に出発し午後3時頃で終わる日もあれば、週に3日ほどは午後5時過ぎまで販売する日もあります。夏は汗だくになりながら、冬は「寒い寒い！」と言いながら、頑張って販売をしています。移動販売はとても大変ですが、みんな「自分がパンをとどけるんだ！」という責任感を持って取り組んでいます。

近隣のAコープや太地漁協スーパー等の店舗にも、いなほのパンを置かせて頂いております。お店でいなほのパンを見かけたり、移動販売車を見かけたときは、ぜひお買い求め下さい☆



新商品や販売先がふえました♪ ワークショップゆう

2022年もコロナウイルスの影響を受けた年となりました。そんな時こそ何かできないかとみんなで考え、新商品のこだわり「あん食パン」の発

売を始めました。オリジナルクッキーの「ゆっきー」を「道の駅たいじ」に続いて、新宮市内の「Bハイマート」でも販売させていただけるようになりました！

また、色落ちがしにくい天然の染料で染めた、カラフルな『タイダイ染め』のTシャツやバングナの販売も開始しました。利用者が1枚、1枚でいねいに染めています。ご注文も受け付けています。ぜひファッションの一部として取り入れてくださいネ♪



カラフルな『タイダイ染め』商品



こだわりの『あん食パン』

編集後記 自分が染めた染物が売れるのを見て、「(自分が)染めたで！」とドヤ顔で話す利用者の姿に、誇らしげな気持ちが伝わってきます。「ドヤ顔」という言葉を使うようになったのは最近だと思えば、数年前に関西のお笑い芸人がテレビ番組で使い全国的に広まったそうです。「ドヤ顔」とは「誇らしげな顔つき」「自慢げな表情」「したり顔」などのような顔を表している言葉で、関西弁の「どや」=標準語で「どうだ」という意味になります。「どうだすごいだろう！」と何かを自慢する時の表情のことを指して「ドヤ顔」というそうです。利用者の自信に満ち溢れた「ドヤ顔」を見られた時、心の中で「どや！」と嬉しくなります。



いなほ福祉会ニュース 第83号

■発行日/令和5年3月
■発行者/社会福祉法人いなほ福祉会
■住所/那智勝浦町中里575
■電話/0735-57-0334



◎公式サイト
<http://www.inahofukushikai.jp>
◎E-mail
info@inahofukushikai.jp

ごあいさつ

平素は、当法人が運営する各種障がい児者福祉事業に対しまして、ご理解、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症は、私たちの日常生活に経験したことのない制約をもたらしました。ワクチン開発などの普及により、ようやく社会経済活動が動き始め、本来の生活に戻りつつあることは嬉しいことです。しかしながら、私たち福祉事業所では、感染対策にまだまだ気を緩めるわけにいかないのが実状です。

前回ニュースでもご報告いたしました。当法人の重点目標の「ワークショップゆう」の移転新築整備です。現在のところ事業規模や種別、さらには基本設計の段階まで準備をすすめてきております。できる限り早い時期に施設整備



が実現できるよう、法人として全力で取り組んで参りたいと考えています。

「福祉職場に職員の応募が無い」という現状は、全国的に深刻な課題となっています。私たちが暮らす紀南地方では、人口流出とともに福祉に携わりたい若い人材の確保に窮するところです。法人の努力にも限界があり、国によるダイナミックな政策的取組が必要だと考えます。

厳しい時代であるからこそ、関係者が一丸となって諸課題に取り組んでいかなければならないと考えます。

これまで同様、住民の皆様には、なお一層ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。紙面にてご挨拶とさせていただきます。

社会福祉法人いなほ福祉会
理事長 細野 建治

「みんなでお花見が出来ますように☆」 平見ハイツ

昨年3月、関わりのある日本クマノザクラの会の会員の方から、クマノザクラの幼木を譲っていただきました。

「早く大きくなってね!」「キレイなお花咲かせてね♪」など、いろんな声を掛けながら、ハイツのみんなで鉢植えをしました。少しずつ成長していくクマノザクラに、「もっと大きくなってね」と水やりをすることが、楽しい日課になっています。

いつの日か、キレイに花を咲かせたクマノザクラをみんなで囲み、お花見

が出来るようになるのが待ち遠しいです。そしてクマノザクラの成長のように、ハイツのみんなも穏やかにのんびりと過ごしていける事を願っています。





いなほ福祉会「福祉の仕事の魅力」 児童分野職員



放デイほたる (放課後等デイサービス)

放課後等デイサービスでは子どもたちは主に放課後過ごしますが、休校日は朝から夕方までみんなと共に過ごします。夏休みは1年の中で最もアクティブに活動する時期です。今年の夏は中高生の「カヌー体験」を企画しました。本格的なカヌーで、熟知している方に指導して頂きました。



カヌー体験

体験の前には丁寧な取り組みが必要です。ほたるの子どもたちが、かけがえのない子ども時代を豊かに過ごせるよう、スタッフみんなで思いを一つにして考えた活動で、子どもたちの笑顔を引き出した時、自分自身も達成感を味わっています。

子どもたちに本物体験を。

寺前 和直



通園めだか (児童発達支援センター)



お芋ほり

子どもたちにはたくさんの体験をして色々知ってほしい、世界を広げてほしいと思っています。そのためには、季節毎の行事も目一杯楽しませてあげたいです。秋に子どもたちとお芋ほりをしました。6月頃にみんなで苗植えをし、日々水やりをし、散歩で畑の前を通るたび

に、「楽しみだねー」と話をしてきました。遊びの中でも気持ちを高め、期待を膨らまします。いざ、芋を掘ると、「わー大きい！」と子どもたちから笑顔があふれます。嬉しい！楽しい！びっくり！成功！…いろんな感情を表し、友だちと見せあって気持ちを重ね合わせます。入園当初は、一人になりがちだった子どもも、笑顔で共感を求めている姿に、子どもたちが発達している手ごたえを感じ、行事に向かう日々の積み重ねの大切さ、保育の仕事へのやりがいを感じます。

気持ちを高め、行事にむかう。

寺本 紗弥香



通園らっこ (児童発達支援事業)



園庭遊び

保育では、「笑顔にしよう」というより、「自分が楽しもう」という思いで、子どもに負けないくらい遊びを楽しんでいます。自由遊びは特に、無理に誘うより自分たちが楽しんでいる方が、子どもも自然と遊びの渦に入ってくるという事を実感しています。当初、思うようにな

らないとくずれてしまいがちだった子どもが、大人が楽しそうにしている姿を見て「まあいいか」と気持ちを立て直したり、誘われる事が苦手だった子どもが、知らず知らずのうちに誘われる事が好きになっていたり…。自分が楽しいと、そんな子どもの新しい姿にも気づくようになりました。

「ミテ！コレ！」とキラキラした目で発見を伝える子どもたち。ワクワクの気持ちを私に共有してくれているんだと、自然と笑顔の連鎖が起きています。

自分が楽しむ♪

脊古 夏美



通園くじら (児童発達支援センター)



Xmasツリー飾り

保育を組み立てる際、「子どもが自分でわかって活動する」「子ども自身がやってみよう！と思える」保育を考えています。誰でも、させられるより分かって楽しみにしながらの方が、楽しいだろうし、達成感も感じると思います。「これをするぞ」と子ども自身が目標を

決め、期待や勇気を持って日々色々な経験をしています。やりきった時にどや顔を見せたり、「また次もしようね！」と子どもから反応が返ってきた時が、保育をしている上で一番うれしい瞬間です。子どもは一人一人違うので、分かる活動・楽しい活動を考えるのは、新人の頃はとても悩みましたが、経験を重ねる中で、自然と子どもの顔が浮かび、「これは絶対楽しい」とあそびを思いつくようになってきました。やってみようという気持ちと経験の積み重ねの大切さは大人も子どもも一緒かもしれません。

子どもがキラキラする瞬間を求めて。

西野 梢

